

オープした民宿は、同町乙原の馬瀬川第二ダム湖畔にある「花緑里」。木造平屋で、客室は六畳一間が二部屋あるほか、風呂なども備える。肉以外は全てセットにしたバーベキュームニーも用意。家族やグループなど、一日一組限定で受け入れている。

岩屋ダム下流のダム湖畔

下呂・金山の細江さん

ンを設置したり、冷蔵庫を置いたりしてオープンにしきつけた。一年ほど前まで居住していた宿舎だったため、簡単なり二ユーハウスで済んだという。

地域を回るうちに、岩屋ダム下流にあるダム湖畔を眺望する風景を「世界のリゾート地」にも引けを取らない」と感じるようになった。

細江さんは東京の大学を卒業後、大手衣料品店チエーンなどに十三年ほど勤めた。二年前に父親の仕事を継ぐために故郷に戻ったが、すぐに船で世界一周する旅に出発。帰国後、仕事で

知り合いのアユ釣り愛好家から、ダム湖近くに宿泊する場所がないという声も聞き、民宿経営を決意。新型コロナウイルスの影響もあって利用実績は今のこと、親戚や東京時代の友人

過疎化が進む地域を盛り上げようと、下呂市金山町で電器店を経営する細江尚吾さん(37)が今夏、岩屋ダムの下流にあるダム湖畔で空き家を利用した民宿経営に乗り出した。元製茶工場の従業員用宿舎をリニューアルし、8月8日にオープン。さらに湖畔にある築100年ほどの古民家2棟も、所有者の協力を得て民宿として運営する予定だ。(吉田幸雄)

(吉田幸雄)

古民家民宿の経営 一緒にしませんか



上 空き家を利用して民宿を始めた細江さん
下 民宿近くから見られる馬瀬川第二ダムの眺望＝いずれも下呂市金山町で

眺望する風景 お気に入り

うに」とじまるが、古民家一棟の年内オープンに向けて準備を進めている。

細江さんの活動を後押ししたのは、地域おこし協力隊員として市外から訪れ、活動している若者たちの姿だった。「人口が減って空き家も増えている。地域を盛り上げるための活動を同年代の人々に発信し、自分もやってみたいと考える人を増やしていきたい」と意気込む。民宿と一緒に経営する人を募つてい

4) 5854

問
細江さん

11

=080 (881)